

RACE REPORT



SUPER
FORMULA

Round.06 FUJI

第6戦 富士スピードウェイ

2024年10月12日(土)

予選・決勝

天候：晴れ 路面：ドライ

#38 阪口 晴南

予選 5番手 決勝：18位

#39 大湯 都史樹

予選 17番手 決勝：リタイア

約2ヶ月弱のインターバルを経て、2024年の全日本スーパーフォーミュラ選手権は第6大会を迎えた。舞台は静岡県富士スピードウェイ。合同テスト、第4戦ですでに多くのデータがあるコースだが、季節は10月。気温の変化でセットアップが変わることから、対応が必要だった。

この週末は今季最初の1大会2レース制で、10月12日(土)の第6戦の予選、決勝に向け10月11日(金)には1時間30分のフリー走行が行われたが、阪口は1分23秒438を記録し8番手に。一方の大湯都史樹は、1分23秒675というベストタイムで11番手で終わっていた。

QUALIFY 公式予選

10月12日(土) 9:00~9:42 天候：晴れ 路面：ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'22.011 / #39 大湯都史樹 1'22.934

迎えた10月12日(土)の第6戦の予選・決勝日は、快晴で富士山も顔を出すなか午前9時から公式予選がスタートした。気温19度/路面温度25度というコンディションのもと、まずQ1のA組に出走したのは、前日の専有走行で「『かなりまずい』と危機感をもっている」と苦戦を予想していた大湯だ。アウトラップから一度ピットへ戻った後、チェッカーに向けアタックに入っていた。

ただ、大湯の状況は前日から大きく変わってはいなかった。「前日の11番手がそもそも手ごたえ以上の順位でした。予選になったら『やはりこうなるよな』という感触でした」という大湯のベストタイムは1分22秒934。順位は9番手で、開幕戦以来となるQ1敗退を喫してしまった。

そんな大湯の悔しい予選に続きB組に出走したのは、「初日はロングランも良かったですし、ショートランもユーズドタイヤでは感触が良かったのですが、ニュータイヤのアタックが良くなって、原因を追究していました」という阪口だ。

一度ピットアウトした後すぐに戻り、再度コースインした阪口は、まずは1分23秒017を記録すると、チェッカー周りに1分22秒515までタイムアップ。B組の4番手につけ、Q2進出を果たしてみせた。

15分間のインターバルを経て迎えた午後9時35分からのQ2。阪口は4周目に1分22秒011を記録すると、翌周も再度アタック。ここでは1分22秒328とタイムは伸ばせなかったが、それでも5番手という位置につけてみせた。「昨日からQ1に向けて改善し、そこからQ2に向けてさらに良いステップができました。ひさびさに好位置から戦えますし、予選はいつも最低限この位置で戦えるようにしていきたいです」と阪口は語った。予選の総合順位としては、阪口が5番手、大湯が17番手となった。



RACE

決勝レース

10月12日(土) 14:50~15:53 天候:晴れ 路面:ドライ
ベストタイム #38 阪口晴南 1'24.359 (34L) / #39 大湯都史樹 1'25.753 (26L)

公式予選終了から約5時間。第6戦の決勝レースは、午後2時50分にフォーメーションラップのスタートが切られた。午前続き富士スピードウェイは晴天で、気温23度/路面温度32度というコンディションのもとレースの火ぶたが切れて落とされた。

5番手から表彰台を目指したかった阪口だが、レッドシグナル消灯とともにまさかの光景が飛び込んできた。クラッチは繋がったものの、直後エンジンストール。阪口は危険を避けるために、力なくコース外側に車両を寄せるので精一杯。なんとか再始動はできたが、20番手までポジションを落とすことになってしまった。

一方、17番手からスタートした大湯は「ベースとして何かが間違っている状態なので、レースでも苦しいと思います。正直、第7戦に向けてセットアップに割り切りたくらい」という状況で迎えた決勝だったが、スタートで14番手までポジションを上げると、前の集団を追っていった。

2周目、大湯は後方から迫った#12 三宅淳詞に先行を許すも、6周目には#14 大嶋和也をTGRコーナーでオーバーテイクするなど中団でバトルを展開していった。ただ、その後もやはりペースは苦しい。13周目、#19 ニック・デ・フリースにオーバーテイクを許してしまった。

上位陣では10周を過ぎてピットインを行う車両が出てきたが、VERTEX PARTNERS CERUMO・INGINGの2台はコース上にステイしレース中盤を戦っていった。

ただ19周目、大湯にまさかの事態が襲いかかった。足回りのトラブルが発生し、コース上でスロウダウン。なんとかピットに帰り着き修復作業を行うことを強いられた。15分の作業を経て大湯はピットアウトし、レースに影響がない場所を選びながらチェック走行を実施。翌日にはすぐに第7

戦がやってくる。1周もせずに予選に臨むわけにもいかず、大湯は確認を行った後ピットに戻り、うまくいかなかった第6戦を終えることになってしまった。ただし、ピットイン前に大湯は自己ベストタイムも記録している。

一方、スタートで大幅に遅れてしまった阪口は、その後は上位陣と同等のペースでレースを進めていった。上位は接戦のなかでの走行だけに単純な比較はできないが、もししっかりとスタートを切ることができていたらと思わせる走りだった。

阪口は32周を終えピットインし、タイヤ交換を実施。終盤までペースを落とすことなく走りきったが、最後までスタートでの遅れが響き、1周遅れの18位でフィニッシュすることになった。

表彰台獲得に沸いた第4戦富士から一変し、予想外の大苦戦を強いられてしまったVERTEX PARTNERS CERUMO・INGING。苦境のなか得られたものを第7戦に繋げるべく、チームは一丸となっていく。



COMMENTS

ドライバー／監督コメント



38 阪口 晴南 SENA SAKAGUCHI

「エンジンストールの状況はまだ調査中ですが、後方グリッドの車両が停止するまでの時間が長く、ふだんと違う手順で万全ではなかったのではないかという気がしています。明日に向けてデータを確認して、問題はしっかり解決したいですね。その後のペースについては、上位陣は争っているので単純な比較はできませんが、フィーリングは良かったと思います。それだけにスタートがうまくできなかったのが残念ですね。ただ一方で、最近トラブルが多かったので、しっかりとレースディスタンスを走れたことは非常に良かったです。明日の第7戦は今日とまったく同じフォーマットですし、今日の分をしっかりとぶつけられるように頑張っていきたいと思います」



39 大湯 都史樹 TOSHIKI OYU

「結果的にリタイアという悲しい結果になってしまいました。今週末はフリー走行から予選とずっと苦しい状況でしたが、今回の決勝レースを終えたところで不調の原因の糸口のようなものが見えた気もしているので、すべてがネガティブというわけではありませんでした。レース序盤にはオーバーテイクするシーンもありましたし、ファンの皆さんに戦うシーンをみせられたことは良かったと思います。ただ、いかんせんスピードがない状況なのは事実です。この問題がすぐに解決できるかという点、ふつうはどんなチームでも難しいとは思っていますが、なんとか解決し、上位を目指せるように最善を尽くしたいと思っています」



立川 祐路 監督 YUJI TACHIKAWA

「正直、今日はすべてがうまくいかない一日になってしまいましたね。阪口選手は予選までは好調でしたが、スタートでのストールですべてを失ってしまいました。原因はこれから調べますが、その後のペースが良かっただけに悔やまれます。大湯選手は予選から問題を抱えていてペースが上がらず、決勝でも問題があったことから、レースを続けることができませんでした。阪口選手についてはレースペース自体は悪いものではなかったですし、明日リベンジして欲しいと思います。大湯選手もなんとか前大会までの調子を取り戻して欲しいですね。今日は悔しい結果でしたが、第7戦では2台で今日の借りをしっかり返したいです。明日もぜひ応援よろしくお願いします」



RACE REPORT

RESULT リザルト

第6戦富士スピードウェイ 決勝結果

Pos.	No.	Driver	Car	Engine	Laps	Total Time	Gap
1	36	坪井翔	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'05.287	
2	15	岩佐歩夢	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	59'09.727	4.440
3	7	小林可夢偉	Kids com KCMG Cayman SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'10.140	4.853
4	5	牧野任祐	DOCOMO DANDELION M5S SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	59'10.991	5.704
5	8	福住仁嶺	Kids com KCMG Elyse SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'15.982	10.695
6	16	野尻智紀	Red Bull MOTUL MUGEN SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	59'16.650	11.363
7	65	佐藤蓮	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	59'17.185	11.898
8	64	山本尚貴	PONOS NAKAJIMA RACING SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	59'18.086	12.799
9	6	太田格之進	DOCOMO DANDELION M6Y SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	59'24.191	18.904
10	3	山下健太	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'27.357	22.070
11	19	N. デ・フリース	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'27.567	22.280
12	37	笹原右京	VANTELIN TOM'S SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'39.266	33.979
13	20	国本雄資	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'42.207	36.920
14	12	三宅淳詞	ThreeBond Drago CORSE SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	59'42.361	37.074
15	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'43.901	38.614
16	4	小高一斗	REALIZE Corporation KONDO SF23	TOYOTA/TRD 01F	41	59'53.567	48.280
17	53	Juju	TGM Grand Prix SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	41	1:00'30.339	1'25.052
18	38	阪口晴南	VERTEX CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	40	59'24.566	1Lap
19	55	大津弘樹	TGM Grand Prix SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	40	59'46.941	1Lap
20	12	三宅淳詞	ThreeBond Drago CORSE SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	35	1:01'30.373	2Laps
以上完走							
-	39	大湯都史樹	VERTEX CERUMO・INGING SF23	TOYOTA/TRD 01F	31	59'01.463	10Laps
-	50	木村偉織	San-Ei Gen with B-Max SF23	HONDA/M-TEC HR-417E	24	35'17.170	17Laps

ドライバーランキング (上位)

Rank.	No.	Driver	Total
1	16	野尻智紀	64
2	36	坪井翔	63.5
3	5	牧野任祐	61
4	15	岩佐歩夢	50.5
5	3	山下健太	40.5
6	64	山本尚貴	32
7	8	福住仁嶺	30
8	39	大湯都史樹	25
9	6	太田格之進	22
10	7	小林可夢偉	15.5
12	38	阪口晴南	12

チームランキング

Rank.	Team	Total
1	TEAM MUGEN	102.5
2	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	75
3	VANTELIN TEAM TOM'S	62.5
4	PONOS NAKAJIMA RACING	46
5	KONDO RACING	42
6	Kids com Team KCMG	39.5
7	VERTEX PARTNERS CERUMO・INGING	32
8	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	9
9	TGM Grand Prix	3
10	San-Ei Gen with B-Max	1